

第2回 矢作川流域 上下水道広域連携協議会 議事概要

- 1 日 時：2026年7月24日（金）午前10時10分から午前10時35分
- 2 場 所：愛知県本庁舎 2階 講堂
- 3 出席者：別紙のとおり

1. 開会（愛知県知事挨拶）

- 人口減少社会の到来による水道料金収入や下水道使用料収入の減少、施設の老朽化に伴う更新需要の増大など、上下水道事業を取り巻く経営環境は今後ますます厳しさを増していく。
- こうした中、本県では、強靱で持続可能な上下水道サービスを将来にわたって提供するため、料金上昇の抑制、カーボンニュートラルの実現、DXの推進を図る「上下水道一本化」に取り組んでいる。
- その第一歩として、県と西三河地域の10市町で一本化に向けた基本方針を策定し、昨年12月26日に「矢作川流域上下水道広域連携協議会」を設立した。
- また、本年1月29日には東三河地域においても「豊川流域上下水道広域連携協議会（仮称）準備会」が設立されるなど、三河地域全体で広域連携に向けた取組を進めている。さらに、尾張地域においても働きかけを進めているところである。
- 本協議会の設立後、関係自治体の皆様と連携しながら、一本化組織の設立に向けた具体検討を進めているが、今後は、この西三河地域に加え、東三河地域も含めた三河地域一体での組織設立を見据えながら、より効果的で持続可能な事業運営の実現を目指してまいりたい。
- 早期の基本計画策定に向け、皆様と一丸となり、上下水道一本化の取組を更に加速していく。

2. 議題

(1) 上下水道一本化の今後の方向性について

- 上下水道一本化の今後の方向性について事務局から説明を行い、当該方向性に基づき検討を進めることが承認された。

(2) 基本計画骨子について

- 基本計画骨子の趣旨及び項目について事務局から説明を行い、当該説明に基づく方向性で協議を継続することが承認された。

3. 出席者発言

【議題（1）】

西尾市長

- 西尾市は東三河地域の蒲郡市に隣接しているが、今回西三河地域だけでなく、東三河地域を含めた三河地域一体での組織設立が検討されるということであり、一本化のメリットがより一層発揮されるものと期待する。東三河地域においても取り組みを進めていただくよう要望する。

高浜市長

- 高浜市の上下水道事業においては、今後、人口減少や施設、管路の老朽化、そして特に技術職員の人材確保といった様々な課題により、経営状況はより厳しいものとなると見込んでいる。
- 三河一体での検討をしていくことについて、組織が大きくなることで広域的な連携によるスケールメリットを活かした効率的な事業運営により、本市の課題解決につながる様々な効果を期待している。

刈谷市長

- 刈谷市はこの4月に料金値上げをさせていただき、経営的には安定しているところであるが、各地域にはそれぞれの課題があると思われる。
- この協議会の中で課題解決に繋がるものと期待している。

【議題（２）】

岡崎市長

- 昨今、上下水道事業においては、大規模災害時の機能停止が深刻な課題である。
- 能登半島地震の折にも、発災直後から人的・物的リソースが圧倒的に不足したとの報告もあり、単独市町では対応は大変厳しいとの認識である。
- 被害を最小限に抑え、復旧を迅速化するため、広域化による危機管理・対応力の強化に期待するところである。
- こうした点から、「危機管理」については、新組織での取組として最重要事項と捉え、しっかり検討していただくよう、要望する。

知立市長

- 本取組がスケールメリットを活かした効率的な事業運営を実現するものであることを期待している。
- 骨子項目の地震・老朽化対策については、大変重要な取組であり、着実に進めていく必要があるが、下水道整備においては、概成した自治体もあれば、引き続き整備を進める自治体もあるなど、整備状況が異なっている。
- このため、地震・老朽化対策のみならず、未整備地域の早期解消に向けた視点も骨子に位置付けていただけるようお願いする。

安城市長

- この一本化の取組は、将来に渡る上下水道事業の安定化に向け、広域連携による様々な効果が期待されるところである。
- 今回の基本計画骨子の策定にあたり、三河地域の自治体におけるより具体的なメリットや、利用者にとってサービス水準や利便性の向上にどのように結びついていくのかについて、住民の皆様に分かりやすく示していただくようお願いする。

以上